≪大学史の源流を訪ねて：都島工業専門学校≫

都島工専と大阪市立大学

－「大学史の源流を訪ねて」の「はじめに」として－

東　　恒　雄

大阪市立都島工業専門学校のルーツを辿ると市立大阪工業学校に遡る。市立大阪工業学校は、1908年4月、現在のJR大阪駅北口の近くに創設された。機械・建築の2科よりなる4ヵ年制の本科と、機械・建築・分析・家具の4科よりなる選科が置かれた。入学資格は、本科は満14歳以上で高等小学校卒業以上、選科は満12歳以上で尋常小学校卒業程度以上、生徒定員は本科400名（1学年100名）、選科100名であった。1918年4月には修業年限2ヵ年、定員300名の予科が開設された。予科の入学資格は年齢12歳以上で尋常小学校を卒業したものとされ、予科修了者には本科入学資格が与えられた。1920年、校名が大阪市立工業学校と改称され、本科に電気科が新設された。また、選科を廃止し、中等学校卒業後2ヵ年の専修科が設置された。1922年には土木科が新設された。

1926年、大阪駅拡張のために学校敷地を明け渡し、都島区善源寺町に移転した。これを機会に、校名は大阪市立都島工業学校と改称され、予科および専修科を廃止して全国的にも稀な修業年限6年制の工業学校となった。なお、大阪市立都島工業学校は現在の大阪市立都島工業高等学校の前身である。

1941年12月8日太平洋戦争開戦。この非常事態を迎えて、政府は学制改革を行い、1943年、国民学校初等科卒業を入学資格とする中等学校（実業学校を含む）の年限を一律に4ヵ年に短縮した。その結果、都島工業学校は、6年から4年に一挙に2ヵ年も年限短縮を余儀なくされた。

さて、都島工業学校の同窓会である浪速工業会は1934年に社団法人組織となり、これが先頭に立って「母校に高等科を併置せよ」と根強い昇格運動を行ってきていた。また、当時の戦時状況のもとで優秀な工業技術者の養成が急務との判断から、1943年4月、大阪市立都島高等工業学校が創設された。設置学科は、機械、電気、建築、土木の4学科、生徒定員は120名ずつ合計480名、修業年限は3ヵ年、入学資格は中等学校卒業者およびこれと同等以上のものとされた。校舎は都島工業学校内に置かれた。

その翌1945年4月1日、文部省の方針により、都島高等工業学校は都島工業専門学校に改称された。1945年8月15日終戦。9月1日より都島工専の授業は再開されたが、校舎は戦災焼失で不足し、北区浪花町の北天満国民学校に分教場が設けられた。同分教場は1946年4月から北区菅栄町の菅北国民学校に移転された。

1945年9月、都島工専の第1回卒業証書授与式が挙行された。卒業者数は、機械科33名、電気科35名、建築科32名、土木科35名の計135名であった。1946年10月には、校舎完成

までの暫定措置として、都島工専の全学科は天王寺区北山町の桃丘国民学校の仮校舎に移転した。

1947年3月、「教育基本法」および「学校教育法」が制定され、高等教育の分野では、旧制の大学・高等学校・専門学校・師範学校等を統合再編して、1949年度から4年制の新制大学へ転換することになった。これを受けて、都島工専関係者は「都島工専大学昇格期成同盟」を結成して都島工専を市立工業大学へ昇格させるよう大阪市に働きかけた。しかし、最終的には、大阪商科大学、大阪市立医科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校が統合して一つの総合大学に集約することになり、都島工専は新生大阪市立大学の理工学部として再出発することになった。

1949年4月1日、大阪市立大学が発足し、同年度から都島工専の新入生募集は停止された。1951年3月、都島工専の最後（第6回）の卒業式が行われた。6期にわたる都島工専全期間の卒業生総数は、機械科214名、電気科209名、建築科224名、土木科234名、合計881名であった。

なお、理工学部は1959年4月に理学部と工学部に分離した。また、1960年11月には都島工専の卒業生も会員にして工学部同窓会が創設され、現在に至っている。

今回、『大阪市立大学史紀要』に工専OBの皆様に回想記をよせていただくきっかけとなったのは、2011年3月2日に大学史資料室で行われた研究会である。それは、大学史資料室と恒藤記念室が主体となった都市問題研究「大阪市立大学と恒藤恭」の「大学史グループ」の研究会であり、「戦時期大阪における高等工業教育の展開」と題し、この分野に造詣の深い、大阪大学大学院経済学研究科の沢井実教授に報告をいただいた。都島工業専門学校の成立が、1930年代から戦時期の大阪における工業教育の高度化への動きの中に位置づけられ、あわせて、戦時体制が強化される中で、理工系の各分野の研究体制が戦争に協力させられていく姿が詳しく報告された。報告は、都島工専だけに限ったものではなかったが、資料室からの呼びかけに応じて、工専ＯＢの皆様が参加してくださった。そして、『大阪市立大学史紀要』では「大学史の源流を訪ねて」という企画を続けようとしていることがあり、この機会に都島工専卒業生の皆様に、工専での教育やその後の職業生活について、回想を寄せていただくことをお願いしたところ、ここに掲載するように、多くの皆様に貴重な文章をいただくことができた次第である。総合大学としての大阪市立大学が成立する直前の時期について、またその時代の教育について、貴重な記録が得られたと考えている。ご高齢をおして研究会に足を運んで頂いた皆様、ご多用中のところ回想をまとめて頂いた皆様に、深く感謝の意を表するものである。

（あずま　つねお・大阪市立大学名誉教授）